

◆ リハビリテーション室

主 任 山田浩二

リハビリテーション室（理学療法室）は、済生会みすみ病院開院と同時に申請手続きを行い、理学療法Ⅱ施設として開設した。開設時は理学療法士2名の勤務体制であった（開設時の占有床面積188㎡）。理学療法処方箋は診療体制整備・病床開設と共に増加し、2003年度の処方総数は355例に及んだ。処方箋の内訳は、脳梗塞・脳出血77例（約22%）、大腿骨頸部骨折19例、骨盤下肢骨折9例、他であった。処方箋に占める高齢者疾患の割合は多く、廃用性症候群、肺炎、脊椎圧迫骨折が多数処方されている。

済生会みすみ病院へ入院された患者の約80%は、大矢野町・三角町在住の方である。同地域は高齢化率が30%を越える地域であり、また、多くの世帯が老老介護の状況にある。理学療法実施患者も同様に高齢者率が高く、75歳以上の高齢者の処方が55%以上に達していた（対象平均年齢73.8歳）。特筆すべきことは90歳以上の長高齢者が10%以上存在することである。

2004年の回復期リハビリテーション病棟の開設に向けて、作業療法・言語聴覚療法の開設準備を行い、2003年11月に作業療法士2名、言語聴覚療法士1名の2004年4月からの採用が決定した。開設準備の一環として、作業療法・言語聴覚療法施設の改修工事が成され、作業療法室、言語聴覚療法室が整備された。将来的には総合リハビリテーションB施設に移行可能な床面積を確保している。2004年4月からは理学療法に加えて、作業療法、言語聴覚療法が対応可能となる。

総 処 方 数	355件
平 均 年 齢	73.8±14.6
7 5 歳 以 上	197件(55.5%)
9 0 歳 以 上	37件(10.4%)

疾患別状況

脳 梗 塞 ・ 脳 出 血	77
ク モ 膜 下 出 血	3
大 腿 骨 頸 部 骨 折	19
骨 盤 下 肢 骨 折	9
脊 髄 損 傷	2

